

## 概要

- 提案国際集会名 「International Symposium on Sustainability Science: Towards a Mature and Sustainable Society」
- 総括責任者名 「小宮山 宏」
- 提案団体名 「一般社団法人 サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム」
- (実施日程： 平成 24 年 7 月 12 日～平成 25 年 3 月 31 日)

### 国際集会の概要

#### 1. 目標

本提案国際集会は、国際的なサステイナビリティ学に関する教育と産学連携を軸に、国際的に著名な学者や産業界の指導者達をシンポジウムに招聘し、我が国の同学に携わる研究者や産業界の経営者らと会合を行うことで、サステイナビリティ学に関する国際的な産学連携を推進することを目標とする。

#### 2. 必要性

産業界の運営にこそサステイナビリティという考えが活かされるべきであるが、我が国の産業界では特にその方面の理解が一般的に乏しい。社会・自然・経済的に厳しい時代を生き抜くためにはサステイナビリティのコンセプトをより広く、そして深く企業経営者に浸透させることが必要である。

#### 3. 具体的内容

本提案国際集会は多様・多数の研究者がその成果を発表する形式の会議とは異なり、初日にハイレベルな研究者と企業経営者による講演を行い、二日目に小規模ワークショップと大学院生向けの講演（相互対話型）を行う。

#### 4. 実施計画

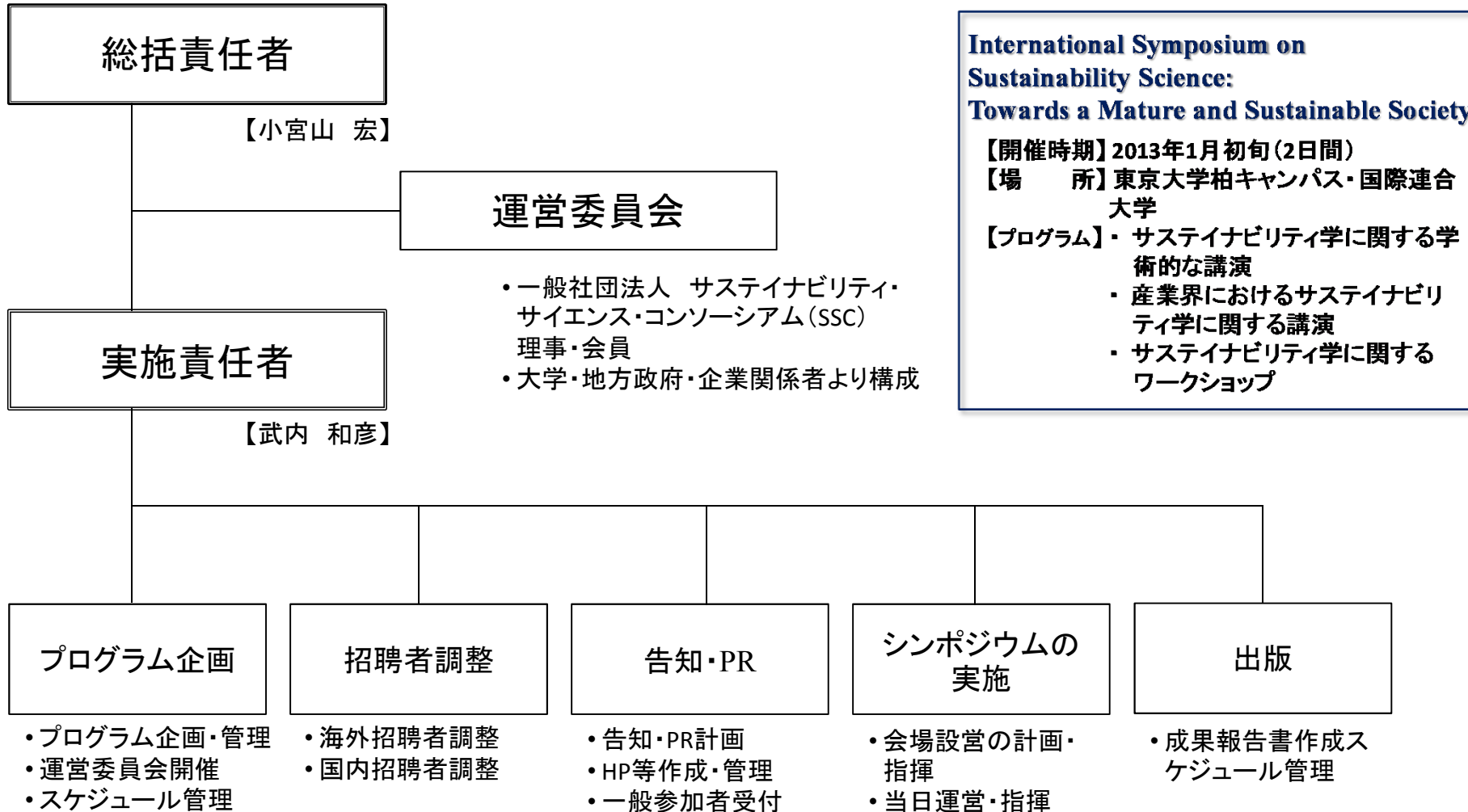
- 5 月：第 1 回 運営委員会開催（プログラム概要決定）
- 7 月：第 2 回 運営委員会開催（プログラム決定、当日運営の担当を決定）
- 10 月：海外からの講師に関する招聘手続き開始
- 11～12 月：会議場における打ち合わせ、リハーサル、会議資料印刷開始
- 1 月：会議実施

#### 5. 実施体制

本提案国際集会に関しては実質的な会議の運営代表である武内和彦理事（東京大学 IR3S 機構長・教授、国際連合大学副学長）を代表とする運営委員会を定め、その運営は会員である松田浩敬（東京大学 IR3S 特任講師）が担当する。事務関連は事務局長の浅尾修一郎が担当する。本提案国際集会終了後、会議資料のとりまとめと出版を予定しているが、それらについては海外招聘講師、参加者と協力し行う。

# 実施体制

「科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進」提案  
International Symposium on Sustainability Science:  
Towards a Mature and Sustainable Society





## 実施内容

### 背景：持続型社会の構築

- **サステナビリティ学と持続型社会 (Mature and Sustainable Society) 構築の共進化**
  - 統合型学術体系としてのサステナビリティ学と持続型社会構築に貢献する企業を含む社会との対話
- **サステナビリティ学のコンセプトを内包した新しいビジネスモデルの構築**
  - 豊かさの再定義

### 目 標

- **サステナビリティ学に関する国際的な産学連携を推進**
  - 海外の大学・研究機関・企業の代表的リーダーを招聘
  - 我が国の同学に携わる研究者や産業界の経営者らとの会合

### International Symposium on Sustainability Science: Towards a Mature and Sustainable Society

- 【開催時期】2013年1月初旬(2日間)
- 【場 所】東京大学柏キャンパス・国際連合大学
- 【プログラム】
  - ・ サステナビリティ学に関する学術的な講演
  - ・ 産業界におけるサステナビリティ学に関する講演
  - ・ サステナビリティ学に関するワークショップ

### 期待される成果

- 持続型社会のビジョン
- 新たなビジネスモデル
- 宣言文の採択と国際社会への発信

SSCのネットワークを利用し、海外の大学・研究機関・企業の代表的リーダーとの対話により、新たな科学技術外交推進へ貢献

## ミッションステートメント

- 提案国際集会名 「International Symposium on Sustainability Science: Towards a Mature and Sustainable Society」
- 総括責任者名 「小宮山 宏」
- 提案団体名 「一般社団法人 サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム」
- (日程： 平成 25 年 1 月 7 日～平成 25 年 1 月 8 日)

### (1) 国際集会の概要

日本においてサステナビリティ学は2005年に東京大学内に設立された大学間ネットワーク型拠点であるサステナビリティ学連携研究機構（IR3S）が創設した学術体系であり、現在は国内の大学ネットワークは一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム（SSC）が担っている。日本はサステナビリティ学の創生期からのリーダーとして世界で同分野をリードしている。本提案国際集会は国際的な同分野に関する教育と産学連携を軸として、国際的に著名な学者や産業界の指導者達をシンポジウムに招聘し、我が国の同学に携わっている研究者や産業界の経営者らと会合を行う。本国際集会を通し、サステナビリティ学に関する国際的な産学連携を推進する。

### (2) 終了時に見込まれる具体的な成果

サステナビリティ学に関して国際的に著名な研究者やサステナビリティを実践する国際企業経営者らを招聘し、我が国の企業経営者、自治体職員・首長、研究者へ企業や自治体の経営・運営にサステナビリティ学のコンセプトを反映し、国際的な産官学連携プロジェクト等を立ち上げる契機を与える。

### (3) 期待される波及効果

本提案国際集会は学術の世界を中心に国際的にサステナビリティ学を創設し、活動を進めてきた大学連合である SSC（前身の IR3S 時代も含め）が本格的に産業界と学術の連携を目指して実施する物であり、我が国の産業界の経営者達にとってサステナビリティに関して考え、経営に生かす機会を与え、さらに、学術界で構築した SSC のネットワークに参加する機会を与える物である。